

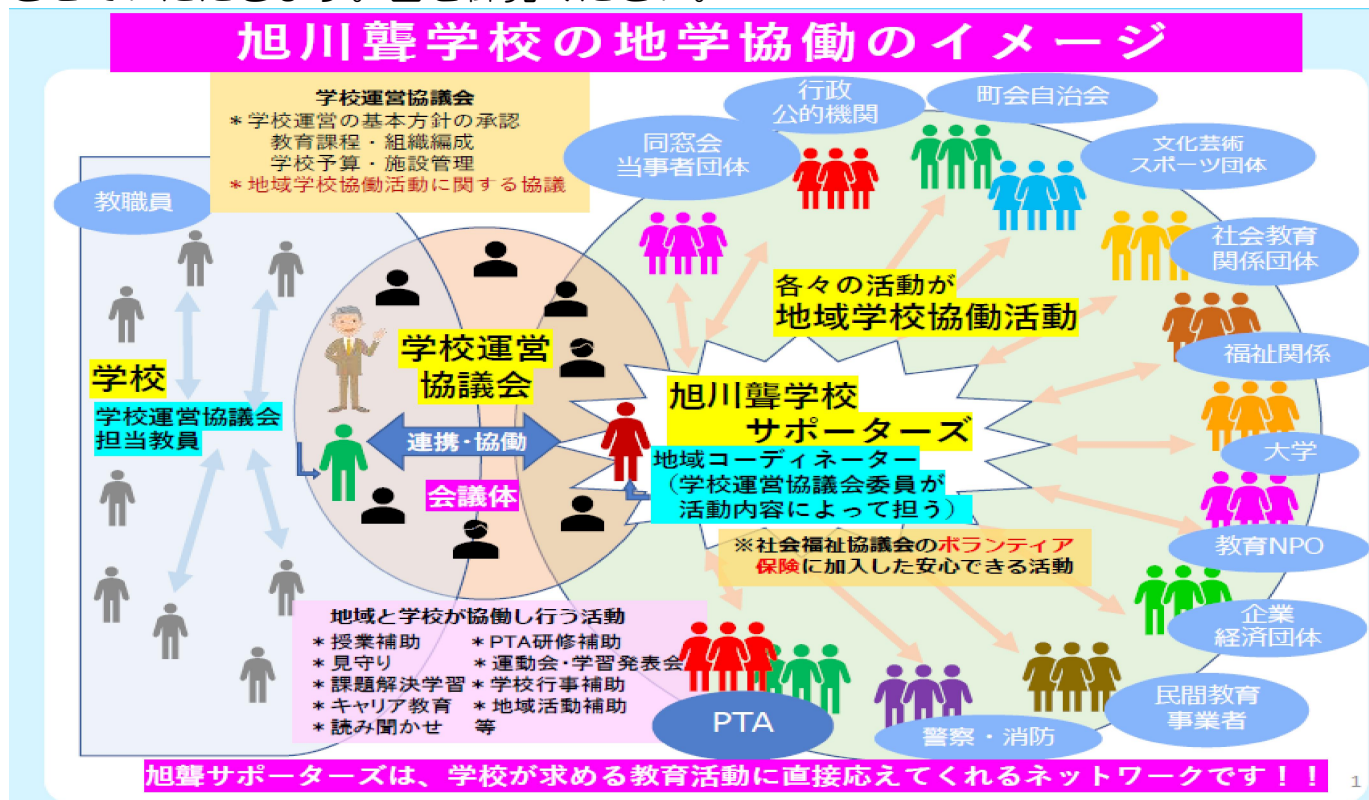


地域と共に!! （旭川聾学校サポーターズ）

4月の異動で来た私は、本校のホームページに「校長のページ」を作ることを決め、係の先生に掲載場所を作ってもらっていましたが、忙しさにかまけて初稿が今日になってしまいました。反省です。今後は、不定期で掲載していきますので、皆様に御覧いただけますとありがたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、はじめての原稿は、「旭川聾学校サポーターズ」（本校独自のボランティア組織）のことになりました。7月1日から募集を開始し、2週間で20名を超える皆さんにお申し込みいただきました。本当にありがとうございます。

「旭川聾学校サポーターズ」を、なぜ始めようと思ったのかについて、御説明させていただきます。図を御覧ください。



旭川聾学校では、令和5年度からコミュニティ・スクールの取組として、学校運営協議会を開催し、委員の皆様の御協力を得て学校経営方針の承認を受けたり、学校運営に対する様々な角度からの御意見をいただいたりなどして、より地域に根ざして開かれた学校作りを目指してまいりました。しかし、学校運営協議会だけでは地域学校協働活動が曖昧でした。そこで考えたのが「旭川聾学校サポーターズ」

ーズ」です。これまでも、大学生が寄宿舍のボランティアに入ってくれたり、運動会のお手伝いをしてくれたりしていましたが、これまでの御協力を維持しながらも、形と考え方を大きく転換して行う新しい取組と言えます。

仕組みとしては、ホームページなどの案内を見て、QRコードからインターネット上の入力フォームに入ってください。必要事項を記入していただきましたら登録は完了です。電話で受付を行わないことも事務手続きを減らし、働き方改革にも一役買っています。その後が他のボランティアとは違うところです。①聴覚障がいの理解 と ②手話体験（校内見学） という講義を受講していただき、受講を終了した方から、社協のボランティア保険（本校予算）に加入していただいた上で安心して活動していただける仕組みです。ですから、タイミングが合わず、実際にボランティアとして活動をしなかったとしても、聾学校や聴覚障がい、本校が行う教育に理解を深めていただくことができます。また、実際にボランティア活動を行う際にも、登録者全員にメールで呼び掛け、都合がよく、やりたい方のみが参加する形なので、やらされ感がないところもよいところだと思います。

ホームページ

例えば、本校の教員や寄宿舍指導員が求める教育活動として、次のようにサポーターズに登録してくれている全ての皆さんに呼びかけます。



「小学部1、2年生が生活科で昔の遊びを勉強します。○日○曜日の○時○分頃から1時間、コマ回しやメンコ遊び、カルタなどを教えたいので手伝ってくれる方はいらっしゃいませんか？」

「幼稚部の子どもたちに対して、毎週決まった時間に10分間だけ手話を使った読み聞かせを行いたいです。手話で絵本の読み聞かせができる聞こえる方と聞こえない方（日常生活で手話を活用されている方）に御協力いただきたい。」

「小学部の体育で、大勢のチームスポーツを体験させたいです。本校の子どもたちは少ないので、一緒にドッチボールやサッカーをしていただけませんか。」

「中学部の部活動はバドミントン部に一人しか部員がいないので練習相手になってもらえませんか。」

「寄宿舍で、放課後の学習サポートをしたり、遊び相手になったりしてもらえませんか。」など、様々だと思います。

このように、本校が求める活動に応えていただける仕組みです。

また、地域から要請があれば学校は可能な範囲で応えたいと考えています。地域の要請を受けて聴覚障がいに関する研修講師を派遣したり、地域の小中学校で学んでいる難聴があるお子さんがいる学校や先生に対してアドバイスしたり、小中学校の子どもたちが障がい理解のために行う学習に協力したりなど、本校ができることを行っていきたいと思います。子どもたちはできれば、助けてもらうだけでなく、地域の皆様に役立つような活動を、本校の子どもたちもできるいいなと思っています。現在既に行っている地域（学校の周り）のゴミ拾いは、地域の皆さんと一緒にやったり、お年寄りのところに行って音楽で練習した楽器演奏を見せてあげたりするのもいいでしょう。

サポーターズ

「旭川聾学校サポーターズ」は本日現在で登録者が25名になりました。大学生だけではなく、卒業生や手話サークルの皆様、高校生、地域の皆様、元教員の方、リタイヤして社会貢献したいと考えている方など、幅広く受け入れられる仕組みです。今後とも、旭川聾学校の教育に御理解と御協力をお願いいたします。

